

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300138		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里みしまの家		
所在地	那須塩原市東三島1-104-223		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名入居定員の、小規模なグループホームですが、小規模ならではのアットホームな雰囲気を最大限の利点とし、入居者様がゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりが出来よう努めています。
特別変わった介護や援助を行っているわけではありませんが、入居者様が「安心して暮せる場所」としてみしまの家が存在できればと考える。
また、広報誌(季刊)を発行しご家族へご利用の状況を伝えたと、概ね好評で「楽しみにしています。」という声も聞かれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心地に近い新興住宅地内に位置し、近くには大型スーパーマーケットや公園などもあり利便性に恵まれた環境にある。安暮里(あんしんしてらせるさと(場所))という事業所名のおり「入居者様が自分らしく安心して暮せる家であること」を基本理念として全職員が常に念頭に入れ、利用者が家庭的な雰囲気の中でゆとりと過ごせるよう日々のケアに努めている。日頃から併設の小規模多機能型事業所や運営母体である医療法人と連携を図り、利用者、家族の安心と安全に繋げている。法人全体で職員の勉強会に積極的に取り組み、サービスの質の向上に結びつけている。事業所のパンフレットをスーパーマーケットに置いてもらい、地域の理解を深めるとともに電話相談にも応じるなど、地域貢献にも取り組んでいる。季節によっては事業所内の小さい畑で、利用者となすやキュウリなどの野菜を作り生活に張りを持たせるとともに、食材にして食事の楽しみとなるような支援もしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年2月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念「入居者様が自分らしく安心して暮せる家であること」という事を念頭に置き継続した援助が行えるよう努めている。	「人としての生命・人としての生活」という法人の理念と「入居者様が自分らしく安心して暮せる家であること」という事業所の基本理念をケース検討会やミーティングの度に振り返り、その理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	項目の状況には至っていないのが現実。事業所全体が施設内の利用者様の援助のみに目が向いてしまい、地域にまで意識が向かない様子。実現できるように検討している。徘徊者の対応等で屋外へ出ていると、近所に住む住民の方が声を掛けてくれるようになった。	自治会に加入し、地域田植え会のイベントに参加したり、散歩中に近所の人と挨拶を通じ交流を図っている。事業所にカラオケやフラダンス、傾聴などのボランティアを受け入れられている。介護等の地域の相談にも応じている。	地域の人々に事業所への理解を深めてもらうため、広報誌等での情報発信や、子供達との触れ合い、地域行事への積極的な参加など、地域との交流がより深まるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践は不十分。今後の検討項目。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域包括支援センター職員・地域住民(民生委員・自治会長)・参加が可能なご家族・当事業所職員からなる運営推進会議であるが、特に地域住民からの忌憚ない意見を多くいただけており、サービスの向上に生かせるよう努めている。	2カ月に1回、併設の小規模多機能型施設と合同で開催し、市職員・地域包括支援センター職員・自治会長・家族代表・社会福祉協議会担当者が参加している。会議では行事や利用者の状況、支援の取り組み等の報告をし、参加者相互の情報や意見交換を行い、サービスの向上につなげている。	議題に応じて、消防職員や駐在所員、民生委員、地域住民、ボランティアなど参加者の幅を広げ、多方面からの意見を取り入れサービスの質の向上に活かす取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の不明点やその他運営上の疑問点など、随時市職員に連絡し、そのつど答えていただけている。上記にもあげたが運営推進会議にも参加してもらっており、話はしやすい環境にある。	運営推進会議に市職員・地域包括支援センターの職員の参加を得て、事業所の状況や取り組みを伝えている。制度改正、更新手続き等や利用者家族からの質問等にも、随時指導を受け連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に開放的な空間、環境づくりを行っており、日中は施錠はしていない。行動を束縛する対応はしておらず、当然身体拘束も行っていない。今年度は法人全体の取り組みとして、各事業所の学習会で学習している。	毎年、身体拘束をしないケアをテーマに勉強会を実施し、身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。スピーチロックは職員同士で気づいた時に注意し合っている。職員の見守りにより、日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会などを行い、職員間の意志の疎通を図り、虐待についての知識を共有し、虐待防止に努めている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学習会などで行えるよう検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所側としては十分な説明を行い、同意はいただけていると認識している。また運営推進会議にも参加いただけているご家族もおり、疑問点を話していただけるような環境にもなって来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族とのご意見・ご要望については随時話し合い対応している。また年度末に全体会議を行い今後の運営に反映できるよう検討している。	家族の来訪の際に、利用者の近況を伝えながら、意見や要望を聞いている。利用者からは日常の関わりの中で、特に1対1になった時に丁寧に話を聞くよう心がけている。意見や要望については、随時職員間で話し合い、さらに全体会議で検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や全体会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会が設けられるよう努めている。	毎月の職員会議や年度末の本部常務理事が参加する全体会議において、意見や提案を出している。管理者は発言しやすい職場環境づくりに努めている。ケアの在り方に関しては毎月のカンファレンス時に全員の見直しをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう心がけているが、今後職員のモチベーションを向上させる方法については検討が必要かと考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・同法人内の学習会を中心に能力の向上を図っている。また必要に応じた研修がいただけるよう今後検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の同業種間での勉強会や話し合いがある。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い利用者様の思いや意向の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い御家族の思いや意向の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様の日常生活上「何が不十分か、何が困っているのか」を把握し、そのことを最優先に考えたケア・支援を行えるような利用形態を考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の希望に可能な限り応えようと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・家族それぞれの要望をうまく伝え合いながら支えあっていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当事業所の利用が始まって、これまでの生活に支障が生じないよう外出や外泊などを薦めることで、社会生活から孤立しないように努めている。	自宅への外泊や孫の運動会の見学など、家族の協力を得て外出する利用者もいる。家族や友人、知人等の訪問の際はお茶を出すなど配慮している。利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居しともに生活していくと自然と入居者様同士の友好関係等が構築されてくるため、その入居者様同士の関係を崩すことのないように、職員は必要な距離を保っている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが停止している状況の利用者様に対して、サービス再開の意向を確認し、サービス終了となった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用前に調査を行い入居者様の思いや意向の把握に努めている。また、ご利用が開始になった後も随時意向の把握が出来るよう努めている。	契約時に家族や利用者に取り組みを行ったアセスメントシートを職員が共有し、理念に基づき利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。入浴時などリラックスして1対1で話し合える時を、思いを聞く機会にしている。意思疎通が困難な場合は表情や態度、しぐさなどから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に調査を行い生活歴等の情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人個人の状況に応じた一日の過ごし方が提供できているかどうか疑問。現在再検討が必要か考える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状を把握し、よりよい生活を営めるには？と言う事を念頭に置いた介護計画が立案できるようカンファレンスを開催している。	家族からの意見の聞き取り、主治医の意見を含め、管理者、看護師、職員で毎月カンファレンスを行い、介護計画を作成している。半年に1回の見直しを基本とし、利用者に変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。状況に応じた介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は現在難しいところがあり、今後の課題。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が出来るように努めています。現在入居後、施設内での生活で完結している方が多く再検討が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望を大切に、かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう努めています。またご家族の希望を含んで検査などが受けられるよう連携を行っている。	家族や利用者が利便性を考慮し、主治医を協力医に変更している。毎月2回の訪問診察があり、薬の処方を行い、医療体制の連携を図っている。歯科、眼科や皮膚科等の受診は家族対応とし、結果の情報は主治医とも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化や異常に対する方向漏れがあった。連携や情報共有の難しさを感じるが最新の状況把握に努めるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、退院後の生活も検討した方向で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された利用者様はいないが、今後このような状況におかれた場合は速やかに関係職員と御家族・ご利用者様間で話し合い、よりよい支援が出来るように検討していく。	重度化や看取りの指針を作成し、利用開始時に事業所で出来る事、出来ないことを説明し家族と方針の確認をしている。医療行為が必要な場合は同法人の病院や特別養護老人ホームの紹介も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	吸引処置についての勉強会を行なったが、実践力が身につくように反復して学習していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・水害の災害時に昼夜を問わず、利用者様が避難できる方法を身につけるよう努める。	併設の小規模多機能型事業所と合同で消防署立ち会いの下、日中及び夜間想定のみ火避難総合訓練を実施している。利用者も実践に近い形で参加している。災害時のマニュアル、連絡体制があり職員は手順・避難方法を理解している。本年度、水や食料等備蓄の保管倉庫を建築予定で、現在備蓄は2日分ある。	避難訓練回数を増やすとともに、運営推進会議等を通じて、近隣住民の参加、協力が得られるような働きかけを期待したい。

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉遣いで対応するよう心がけている。	職員は理念に基づき、利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけにおいても常に笑顔で穏やかに接している。利用者の個人情報適切に整理、管理し、写真掲載の際は本人、家族の了解を得ている。入浴時や着替え時にはプライバシーの確保にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えられる場面とそうでない場面がある。(例:外出の訴えがあっても職員の配置上その時間に外出ができない。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら着る衣類を選んでいただき、決して職員側の押し付けにならないよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者に依頼している為、メニューは決まっていますが、行事を行う場合は食材をキャンセルし、手作りのメニューを楽しんでいただけるように努めている。下膳等可能な方には手伝ってもらっている。また年に数回外食を行なっている。配膳・下膳のお手伝いをしてくださる入居者様がいる。	食材と献立は業者に依頼し、栄養管理をしている。お楽しみメニューを取り入れたり、朝食の時間は利用者個々のライフスタイルに合わせている。パン食を希望する利用者もいる。利用者の力に合わせ食事の準備や、おやつ、餃子作りを職員と共に行ったり、外食など利用者の希望に沿った支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては食材を業者に依頼している都合上、バランスのよいものになっている。水分量はこまめに声かけ等を行い摂取していただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア声かけ・誘導を行っている。口臭のひどい方には起床時にも行っている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声かけ・誘導を行っている。オムツの使用は減っていない。	現在ほとんどの利用者はトイレで排泄ができ、トイレは車椅子でも使用可能で2室に1つある。職員は排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は内服薬(頓服含む)に頼っている。現在は入浴時の腹部マッサージや水分を多めに促すことで自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は午後入浴と日課に組み込んでしまっている。体調等に応じて入浴の可否を決めているが、希望に沿った曜日での入浴はできていない。	入浴は週3回、午後の時間帯に、30分位を基本に行っている。利用者の健康状態や、思いを考慮し部分浴、清拭や足湯も行っている。季節のゆず湯や入浴剤でリラックスできるよう支援しているほか、便秘気味の利用者には腹部マッサージを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるような環境で支援している。個々人の起床時間もばらばらの為、朝食の提供も遅く起床した方には遅く提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状況に応じて服薬管理を行っている。症状の変化にも気をつけ服薬していただいている。飲み残しや誤薬には特に注意して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心がけているが十分とはいえない。「掃除が好きなお方にはモップがけ」「洗濯物畳みが得意なお方には洗濯物畳み」をお願いしている。数人の入居者様で(なるべく多くの方に参加いただけるよう)壁面の飾り付けを作成している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏や真冬といったときの外出は控えている。外出も職員のみで行っており、地域の方の協力体制などは現在は行なっていない。	天気の良い日には、日常的に事業所近くの公園への散歩や買い物等に出かけている。職員が年間行事予定をたて、季節に合わせて花見や紅葉狩りに出かけたり、利用者の体調や希望に合わせて、外食やドライブなどの支援に努めている。	

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、本人が支払えるよう援助している。希望があれば買物に出かけられるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、希望する方には文字を書くなどの手伝いをしている。また自分の携帯を持ち自由に利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花を飾ったり、季節感が出るような飾り付けを行うことで工夫している。現在は加湿器を設置して湿度保全に努めたりして、安全且つ居心地のよいような環境づくりに努めている。	玄関には利用者と職員が作った季節に合った大きな貼絵を飾り、廊下は広くきれいに清掃し、てすりなどは毎日、感染症予防をしている。食堂ホールは天窓があり明るく、大きな窓から雄大な那須連山を眺望することができ、解放感のある作りになっている。室内の温度・湿度も適切に管理し、居心地のよい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになるスペースは特別設けてはいないが、応接スペースで一人でテレビを見ている方や数人でホールで談笑している姿を見かける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室＝自宅となっておりそれぞれの私物を持参することで入居者様個人個人特有の空間になっている。	居室には洗面台・エアコン・ベッド・加湿器の備えがあり、清掃・換気・温度管理等の配慮をしている。各々、仏壇・炬燵・箆箆・テレビなどを持ち込み、好みの小物・家族の写真などを飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるように努めている。		